

キラッ! 輝く人たち

「すべての人馬に感謝でいっぱい」

たがみ ゆか
田神 優香さん（17歳・東）

昨年7月、全日本高等学校馬術競技大会(インターハイ)において団体戦で優勝し、今年度、高校馬術海外留学の全日本代表選手に選出された田神優香さん。1月5日から11日までオーストラリアの馬術強化合宿に参加しました。

「馬を通してたくさんの人との出会いがあった」という優香さんに、馬術を通して学んだことなどをお聞きしました。



ポニー牧場は自分の原点

現在、県立水戸農業高等学校の2年生。「乗馬がやりたい」と高校入学時から実家を離れ、寮生活を送っています。

高校の敷地面積は東京ドーム10個分といわれていて、校舎から馬場まで自転車で移動しなくてはならないほど広大な敷地。「畜産科なので、家畜の出産から出荷までの流れや、研究・実習をたくさん体験できます。すべてが貴重な経験」と充実した高校生活を話してくれました。

乗馬との出会いは、小学3年生のときに入会したネーブルパークの「ポニークラブ」。そこで、乗馬や馬のお世話、厩舎の掃除、ボランティア活動などを体験しました。「もともと動物好きだった私に、両親が勧めてくれました。でも、最初は馬が怖くて、半年で辞めようと思っていたんです」という意外な言葉。でも、途中で辞めたくないという負けず嫌いな性格と、周りの人たちに助けられ徐々に馬にのめり込むようになったといいます。



◀日々、馬との信頼関係を築いて、お互いのレベルを向上させていきます

馬とともに力強く障害を飛び越える

馬術は、馬に騎乗して運動の正確さや美しさなどを競うスポーツ。インターハイでは、馬場内に設置された障害コースを規定時間内で走行し、走行タイムと減点方式で順位を競う「障害飛越競技」で団体優勝しました。

馬術は男女別なく行われる競技。優香さんは3年生の男の先輩2人とチームを組み出場。前年も同じチームで挑戦しましたが好成績を残せず、「最後のチャンス。ここで勝たなくてはと思っています」と小柄な身体で必死に耐えた重圧の大きさを話してくれました。

「馬術は決して一人でできるスポーツではありません。周りの人たちのサポートのおかげで試合に出場することができます。ここまで支えてくれた人に恩返しができるように、感謝を忘れず馬術を楽しみたい」と、さらなる飛躍を誓う優香さん。

馬が人と人をつなぐ

3年後の茨城国体、その翌年の東京オリンピックと夢の舞台が続きます。「茨城国体は水戸農業高等学校が競技会場。ぜひ、母校での大会に出場したい。でも、まずは全国大会出場が直近の目標」と夢を膨らませます。

「これまで、馬が人と人をつないでくれました。やっぱり馬が好き。馬のいない生活は考えられません」と話す優香さん。これから厳しい障害があっても、馬とともに軽々と飛び越えてくれるでしょう。今後の活躍が楽しみです。